

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

工学部

部局長名：

菅 誠治

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>○新旧カリキュラムの円滑な実施と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二年目を迎えた新しい工学部のカリキュラムのスムーズな実行に加えて、これまでに見えてきた問題点を教務委員会を中心に検証することにより、そのブラッシュアップに向けた検討を行う。 ・対面授業を推進しつつ、教育の質を担保しながら、withコロナに対応した安全な授業を実施する。 ・外部評価委員会を引き続き開催し、有識者から頂戴した意見をもとに、カリキュラムのブラッシュアップを図る。 ・授業のピアレビューを継続実施し、授業方法・内容の相互理解と修正を行う。 ・例年どおり授業評価アンケートを実施し、新・旧カリキュラムの授業評価アンケート結果の分析を行う。 <p>○入試</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な志願者確保のため、工学部独自のオンライン進路相談会(月1～2回)と研究室見学会(5回程度)を開催するとともに、高等学校教員との懇談会も継続実施する。推薦入試の枠拡大に対応すべく、入試方法の再検討、推薦入試合格者に対する事前教育についても検討を開始する。 <p>○リカレント教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県の寄付講座を主軸としたセキュリティとAIに関するリカレント教育(文科省の職業実践力育成プログラムに採択済)を実施する。 ・リカレント教育におけるオンライン講義形式を強化し、新たな方向性を模索する。 <p>○グローバル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修・留学(海外短期研修(DIG)および海外短期留学(HUG)の再開可能性を探りつつ、オンラインを活用した新たなグローバル教育の方法を模索する(HUGについては再開予定で準備中)。 <p>○学生の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部長裁量経費により各種学生活動およびDS部の活動も支援する。 	<p>2-1-2</p> <p>2-2-2</p> <p>2-2-3</p> <p>6-1-1</p> <p>7-1-3</p> <p>7-1-4</p>	<p>○新旧カリキュラムの円滑な実施と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工学部のカリキュラムについて、これまでに見えてきた問題点を教務委員会を中心に検証し、ブラッシュアップに向けた検討を行った。 ・毎学期ごとに各授業における授業の実施状況(リモート授業、オンデマンド、対面授業など)を調査し、教育の質を担保しながら、withコロナに対応した安全な授業を実施した。 ・外部評価委員会を引き続き開催し、有識者から頂戴した意見をもとに、カリキュラムのブラッシュアップを図った。 ・授業のピアレビューを継続実施し、授業方法・内容の相互理解と修正を行った。 ・授業評価アンケートを実施し、新・旧カリキュラムの授業評価アンケート結果の分析を行うとともに、ベストティーチャー賞顕彰者には公開授業を行ってもらうなど、授業の質改善に努めた。 <p>○入試</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に近隣高等学校教員との懇談会を実施するとともに、工学部独自のオンライン進路相談会(計17回、参加者374名)と研究室見学会(計5回、参加者189名)を開催し、優秀な志願者確保に努めた。推薦入試の枠拡大に対応すべく、入試方法の見直しに関する検討(具体的には現在課している評点4.3の見直し、および女子枠の新設)を行った。さらに、推薦入試合格者に対する「事前教育(スクーリング)」を今年度初めて試行的に実施し(2/5午後OUXにて実施)、入学決定者のほぼ全員が出席した。出席者アンケート結果も非常に好評であった。 <p>○リカレント教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きセキュリティとAIに関するリカレント教育(文科省の職業実践力育成プログラムに採択済)を実施(参加者29名)するとともに、近隣企業とも様々なイベントを通じて交流し、情報系のリカレント教育の必要性とその拡充について討議を行った。 <p>○グローバル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策に十分留意しながら、工学部独自の海外研修・留学を再開した。海外短期研修(DIG)は8名で韓国にて研修を行った。海外短期留学(HUG)は1名をロードアイランド大学に派遣した。また、オンラインを活用した各種活動も行った(SDGs表彰をいただいた「多様なステークホルダーで化学を体系的に学ぶ国際連携プロジェクト」など)。 <p>○学生の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部長裁量経費により各種学生活動を支援するとともに、DS部の活動を各種会議体で紹介した。
②研究領域	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>○科研費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部・系内での啓発・支援体制を充実させ、新規採択率向上を目指す。 <p>○共同研究(旧工学部教授会での各教員の外部資金獲得情報開示は継続実施中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく発足したグリーンイノベーションセンターやCypher と連携したAIやIoT関連の共同研究の立ち上げを模索する。 ・「岡山県 企業と大学との共同研究センター」との連携により地元企業との共同研究を模索する。 <p>○受託研究(旧工学部教授会での各教員の外部資金獲得情報開示は継続実施中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学の重点研究分野をベースに、工学部内の関連研究者研究活動の見える化を継続的に推進し、新たな研究グループ形成を支援するとともに、大学院と連携してグループによる大型資金獲得への提案を模索する。 <p>○Q1 ジャーナル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員のアクティビティ向上のため、研究活動の調査・奨励・支援体制の構築を模索する。 <p>○国際共著論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手研究員の海外研究者との交流支援を行い、共同研究への進展や継続的な研究交流の実現を目指す。 	<p>8-1-1</p> <p>1-1-2</p> <p>8-2-1</p> <p>8-1-1</p> <p>8-1-2</p>	<p>○科研費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部・系内での啓発活動を行った。 <p>○共同研究/受託研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧工学部教授会での各教員の外部資金獲得情報開示を継続実施した。 ・「岡山県 企業と大学との共同研究センター」、GIC、Cypherとの連携により地元企業との共同研究を推進した。 ・自然科学研究科長、理学部長等と引き続き討議を行い、大型資金獲得を目指して新たな研究グループ形成を現在模索している。 <p>○国際共著論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で十分な活動は行えなかったが、学生交流、教員交流、国際学会開催・参加などが徐々に行えるようになった。次年度に向けて更なる支援を検討したい。
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>○地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに関する研究:工学部としてできることは最優先で積極的に対応する。 ・創造工学センターを中心とした小学生、中学生対象の出前実験や出前講義を行うことにより、SDGsに貢献する。 ・公開講座を継続実施する。 <p>○国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍および国際状況を慎重に考慮しつつ、安全と安心を最優先として下記3項目の実施を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中国(浙江工業大学)、マレーシア(INTEC)および大阪大学とのオンライン国際大学連携における材料化学セミナー(創造工学センターが中心) ・ミャンマーとの交流再開に関する調査 ・中国赴日留学生教育の実施 	<p>8-1-1</p>	<p>○地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、創造工学センターを中心としてサイエンスフェスティバルや科学の体験教室等のイベントを感染対策に留意しながら、主として対面実施した。 ・感染対策に留意しながら公開講座を対面実施した(「未来を拓くロボット工学」23名、「私たちを取り巻く水環境」31名)。 <p>○国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍および国際状況を慎重に考慮しつつ、安全と安心を最優先として下記2項目を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・中国(浙江工業大学)、マレーシア(INTEC)および大阪大学とのオンライン国際大学連携における材料化学セミナーの実施(岡山大学SDGs表彰)。 ・中国赴日留学生教育の実施(オンライン実施)
④管理運営領域	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>○2年目を迎えた工学部のスムーズな運営に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合した2つの学部の融合と相互理解を深めるため、教員研修を行う。 ・会議体の削減・効率化へ向けて、教務委員会とFD委員会の統合について検討を行う。 ・昨年開始したハイフレックス授業のためのインフラ整備を引き続き行う。 ・女子学生獲得のための入試選抜法に関して検討する。 <p>○共有共創コモンズについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着工したコモンズの運営について本部と密接に相談・調整を行い、効率的な運営システムを確立する。 <p>○総合実験研究棟(工学系)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度に着工する総合実験研究棟(工学系)の使用法について綿密に相談・調整を行い、効率的な運営システムを確立する。 <p>○法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会(オンラインも含む)の受講率向上に向け、啓発活動を推進する。 <p>○人事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性教員獲得に向けて、女性限定公募等について準備を進める。 	<p>12-1-1</p> <p>12-1-1</p> <p>11-1-3</p> <p>11-2-3</p>	<p>○2年目を迎えた工学部のスムーズな運営に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合した2つの学部の融合と相互理解を深めるため、教授会等の各種会議をできるだけ対面で行った。 ・会議体の削減・効率化へ向けて、各種委員会統合について検討を行った。 ・ハイフレックス授業のためのインフラ整備を行い、新工学部が管理する講義室24部屋のうち9部屋をハイフレックス型とした(3月末整備終了予定)。 ・女子学生獲得のための入試選抜法および推薦入試の評点4.3の縛りについての緩和に関する検討を行った。 <p>○共有共創コモンズについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有共創コモンズのお披露目会や記念講演会、管理運営について本部と密接に相談・調整を行い、当面の運営システムを確立した。 <p>○総合実験研究棟(工学系)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合実験研究棟(工学系)が着工した(工期がやや遅れて、管理運営についての検討も少し遅れている)。 <p>○法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会(オンラインも含む)の受講率向上に向け、代議員会議を中心に受講勧奨を行った。 <p>○人事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度行った工学系人事(自然、環境生命、ヘルス)17件のうち4件(割合は24%)は女性教員を採用することができた。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。